



避難所における 迅速アセスメント

浜松医科大学医学部健康社会医学講座教授
尾島 俊之

内容

- 迅速アセスメントの目的
- 避難所日報
- 新型コロナ禍での対応
- 関連する重要な活動
- まとめ

迅速アセスメント

- 迅速アセスメントとは
 - 「ラピッドアセスメント」ともいう
 - 時間をかけた調査ができない状況下で、優先度を考慮しながら、必要な情報を収集、分析すること
- 迅速アセスメントの目的
 - 迅速に必要な支援を行うことが目的
 - * 迅速アセスメントを行うことが目的にならないように

いちばん大切なことは、目に見えない

- ある地域・避難所から情報・支援要請が来ない
→ 状況がとても厳しい可能性
 - 避難所に障害者や要介護者がいない
→ 在宅で避難している可能性
 - 指定避難所はそれなりにうまく回っている
→ 指定以外の避難所にも避難者がいる可能性
- * 見えないものに思いをはせて、対応を検討する

内容

- 迅速アセスメントの目的
- **避難所日報**
- 新型コロナ禍での対応
- 関連する重要な活動
- まとめ

避難所日報

令和元年度 地域保健総合推進事業「災害時の保健活動推進マニュアルの周知」報告書

災害時の保健活動推進マニュアル

日本公衆衛生協会／全国保健師長会

令和元年度厚生労働行政推進課事業費「災害発生時の分野横断的かつ長期的なマネジメント体制構築に関する研究(研究代表者:浜松医科大学 健康社会医学講座 教授 尾島 俊之)」において改訂

1 避難所日報(避難所状況)

避難所名 避難所コード

指定避難所以外の場合 所在地

電話 FAX

活動日 年 月 日 記載者(所属・職名・職種)

避難施設基本情報

施設定員(指定避難所) 人 避難者数(施設内) 夜:約 人 昼:約 人

食事提供人数 約 人 車中泊 無・ 有(約 人)

避難所運営組織 有(補遺・ 自治組織・ 自治体・ 学校・ その他()・ 無

外部支援(ボランティア) 有(種類(職種)・人数:)・ 無

防護所設置 有(所属:)・ 無

巡回診療 有(所属:)・ 無

現在の状況

電気 開通・ 不通 予定: 有・ 無

ガス 開通・ 不通 予定: 有・ 無

水道 開通・ 不通 予定: 有・ 無

下水道 開通・ 不通 予定: 有・ 無

飲料水 充足・ 不足 予定: 有・ 無

固定電話 開通・ 不通 予定: 有・ 無

携帯電話 開通・ 不通 予定: 有・ 無

スペース過密度 適度・ 過密

プライバシーの確保 適度・ 不適

更衣室 有・ 無

授乳室 有・ 無

トイレ 充足(基)・ 不足

トイレ衛生状態 良・ 不良

手洗い場 有・ 無 手指消毒 有・ 無

トイレ照明 適度・ 不適 風除けシャワー 有・ 無

冷暖房 有・ 無 洗濯機 有・ 無

褥垫 基礎・ 分替・ その他

湿度 適度・ 不適 換気・湿度 適度・ 不適

土足禁止 有・ 無 清掃状況 良・ 不良

ゴミ収集場所 有・ 無

粉塵 無・ 有 生活騒音 適度・ 不適

寝具乾燥対策 適度・ 不適 ペット対策 適度・ 不適

主食提供回数 3回・ 2回・ 1回・ 無し

おかず提供回数 3回・ 2回・ 1回・ 無し

特別食提供 有・ 無

炊き出し 該当・ 無 残品処理 適度・ 不適

調理設備 有・ 無 冷蔵庫 有・ 無

(2020年版) 写真添付の場合は再度記載— 避難所コード

3 避難所日報(避難者状況)

避難所名 避難所コード

活動日 年 月 日 記載者(所属・職名・職種)

◆記入を要する者◆

	人数	59歳未満 高齢者数		人数	59歳未満 高齢者数		人数	59歳未満 高齢者数
高齢者(65歳以上)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	障害者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	職業者	<input type="text"/>	<input type="text"/>
うち75歳以上	<input type="text"/>	<input type="text"/>	身体障害者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	農作業	<input type="text"/>	<input type="text"/>
要介護認定者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	知的障害者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	問任業	<input type="text"/>	<input type="text"/>
妊婦	<input type="text"/>	<input type="text"/>	精神障害者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	難病疾患	<input type="text"/>	<input type="text"/>
ごみ焼却	<input type="text"/>	<input type="text"/>	難病患者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	肉類消費	<input type="text"/>	<input type="text"/>
乳児	<input type="text"/>	<input type="text"/>	その他(災害時)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	他の消費業	<input type="text"/>	<input type="text"/>
幼児・児童	<input type="text"/>	<input type="text"/>	透析(腹膜透析含む)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	その他	<input type="text"/>	<input type="text"/>
59歳未満(災害時ケア受)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	アレルギー疾患	<input type="text"/>	<input type="text"/>	要継続支援合計 人数(実人数)	<input type="text"/>	<input type="text"/>

特記事項

◆対応すべきニーズがある者◆ ◆まだ解決しておらず、速やかに対応しなければならないニーズがある避難者数を記載する。

該当 有・ 無

医療ニーズのある者 無・ 有(人)

うち医薬品がない者 無・ 有(人)

特記事項(一左の欄のその内容、アセスメント等記載)

4

該当 有・ 無

保健福祉ニーズのある者 無・ 有(人)

高齢者 無・ 有(人)

障害者・児 無・ 有(人)

その他 無・ 有(人)

こころのケアが必要な者 無・ 有(人)

◆感染症・食中毒等症状がある者◆

該当 有・ 無

特記事項(一左の欄のその内容、アセスメント等記載)

総数(実人数) 無・ 有(人)

発熱 無・ 有(人)

咳・痰 無・ 有(人)

下痢・嘔吐 無・ 有(人)

対応内容・結果

課題/申し送り

(2020年版) 写真添付の場合は再度記載— 避難所コード

迅速アセスメントの様式

- 全国保健師長会「災害時の保健活動推進マニュアル」掲載の避難所日報がベースとなる
 - それをベースに、新型コロナウイルス感染症関連項目を追加、または多職種による活用のために項目を厳選することもありえる
- 被災自治体において検討し、様式の指定が行われればそれを使用

避難所日報の目的

被災自治体または支援の保健師等の保健医療福祉活動チームが、公衆衛生的立場から、

- ①その避難所で必要な支援、
- ②翌日以降のチームの活動方針・内容、
- ③広域的な被災地対応、
- ④今後予測される課題の検討等に活用する。

〈避難所活動の目的〉

避難生活によって引き起こされる健康被害を予防し、健康レベルの低下した者を早期に発見して治療や各種サービスに結び付けるとともに、健康レベルの低下をできるだけ防ぐための生活行動をとることができるよう援助する。

記入するにあたっての留意点

- 全ての項目を確実に記載する必要は無い
- 太枠内を優先しながら
- 避難者・避難所運営担当者に過度の負担をかけないように、以下の例も参考に情報収集
 - 例. ①前日までの避難所日報の記録内容
 - ②災害対策本部等の情報など入手可能な既存の各種情報
 - ③前任の支援者(チーム), ミーティングなどの申し送り事項
 - ④避難所運営組織などにおいて把握済みの情報記録
 - ⑤避難所の常駐保健医療支援者(チーム)等からの情報 など
- 積極的に観察、気になる方への声かけをする
- 「要継続支援者」、「対応すべきニーズがある者」には、迅速に確認・必要な支援
- 個人情報は、別途「健康相談票」などに記載

日報の報告

- 避難所管理者や支援者と共有
- 課題や申し送り事項の引き継ぎ

- 概ね毎日の活動終了後に報告
- 口頭・Web・Fax・手渡しなどの方法で

- 被災自治体の方針に従いながら、
市町村、保健所、保健医療調整本部、市町村
や都道府県の災害対策本部等で情報を共有

避難施設基本情報

- 避難所コード
 - 同じ避難所に種々の呼称がある場合の特定に必要
 - 自治体・時期によりコードが有る場合と無い場合
- 食事提供人数
 - その避難所に食事を取りに来る在宅・車中避難者を含む、朝・昼・夕で最も多い数を記載
- 避難所運営組織
 - 「無」の場合、運営組織の確立支援が重要
- 外部支援・ボランティア
 - 避難所運営経験により依頼できることを見極めながら連携
- 医療
 - 有りの場合、適宜、情報交換・連携

避難所状況の項目

- ライフライン
 - 不通のものがあると補完する物資・資機材が必要
- 設備状況と衛生面
 - スペース過密度、トイレ衛生状態、手洗い場、手指消毒、洗濯機など：感染症対策としても重要*
- 生活環境
 - 温度：熱中症や寒冷による災害関連死のリスク
 - 換気、清掃状況：感染症対策としても重要*
- 食事提供
 - 特別食提供：離乳食、アレルギー対応食、腎臓病食、糖尿病食等、必要な人に対応できているか

* 新型コロナウイルス感染症対策としても重要

避難者状況の項目

- 配慮を要する者
 - 避難者カードへの記載、避難所運営担当者等が把握している人数などを参考に記載
 - 「うち要継続支援人数」: 翌日の巡回チーム等が個別に状況確認・支援
- 対応すべきニーズがある者
 - その場で解決できない場合、持ち帰って速やかに対応
- 感染症・食中毒等症状がある者
 - 新型コロナウイルス感染症のPCR検査等陽性者や濃厚接触者がいる場合は特記事項に記載
- 対応内容・結果、課題／申し送り
 - 必要な支援や対策を検討するため、総合的評価として記載

内容

- 迅速アセスメントの目的
- 避難所日報
- 新型コロナ禍での対応
- 関連する重要な活動
- まとめ

新型コロナウイルス感染症に関して把握を検討すべき 避難所アセスメント項目(例)

- 熊本県での避難所カルテ(令和2年7月豪雨)
 - 避難所区分:ホテル等、臨時避難所など
 - 感染症対策などの環境整備(衛生環境)
 - 収容率、検温、手指消毒、マスク
 - 換気、パーティション(個数)、段ボールベッド(個数)
 - 清掃状況、空気清浄機?、専用スペース(医療用)
- その他の項目
 - 有症状者用等の部屋(ゾーン分け)の有無
 - 運営スタッフ待機場所等の過密度・感染対策
 - 消毒液の配置数、利用頻度など

新型コロナ禍で検討すべき新しい支援様式

- 全国から大勢の保健師等が支援に行くことは困難な状況
 - **遠隔支援**: 電話等による健康相談、避難所状況把握など
 - **ITの活用**: 情報の入力、整理、発信の支援
- 避難所運営者からの相談の可能性のある事項
 - 避難所における**感染予防策**
 - **有症状者のゾーン分け**の判断

内容

- 迅速アセスメントの目的
- 避難所日報
- 新型コロナ禍での対応
- 関連する重要な活動
- まとめ

新型コロナウイルス禍での避難

- 避難所での三密を避けるための分散避難が必要
 - 指定避難所以外の避難所の開設
 - 地域の集会施設、民間施設など
 - ホテル・旅館等の活用
 - 親戚や知人の家等への避難
 - 在宅避難（車中避難を含む）
- * 在宅避難者や、多数の避難所の支援が必要

在宅避難者支援

- ニーズ把握
 - 避難所に食事を取りに来る人等の把握
 - 全戸訪問、災害ボランティアや民間による訪問
 - 電話連絡(遠隔支援を含む)
 - 平常時の人口から、避難所避難者を引き算して人数を推計
- 物資の支援(物資格差の縮小)
 - 避難所からの配布
 - より小地域での支援拠点
 - 個別の配布(アウトリーチ)
- 情報の支援(情報格差の縮小)
 - ホームページ、ラジオ等での情報発信
(避難所の掲示板前で密にならないようにという意味も)

リソースのアセスメント

- 支援 = ニーズとリソースを把握してマッチング
- ニーズの把握
 - 避難所・在宅避難者の状況把握
 - 平常時からの把握、既存統計からの推計
- リソースの把握
 - ニーズに対応した人的リソースの把握
 - 保健医療活動チーム
 - 介護・福祉、搬送・物資配布、状況把握(特に福祉・民間)
 - 災害対策本部からの物資情報等の把握

福祉との連携

• ニーズ

- 福祉施設・介護保険施設の被災
- 要介護者、障害児・者
- 生活困窮者（避難所に最後まで残る）
- 包括的支援ニーズ（地域共生社会づくり）

• リソース

- 介護保険事業者、地域包括支援センター
- NPO、民間事業者
- 災害ボランティア
- 災害派遣福祉チーム（DCAT、DWAT）

内容

- 迅速アセスメントの目的
- 避難所日報
- 新型コロナ禍での対応
- 関連する重要な活動
- まとめ

まとめ

- 迅速アセスメント自体が目的にならないように
- 迅速アセスメントの様式は被災自治体で検討して決定
- 避難所に障害者・要介護者がいないことは、在宅避難していることを示している可能性
- 在宅避難者のアセスメントも重要
 - 地域の人口から避難所避難者数を引き算
- 支援のためには、リソースのアセスメントも重要
- 福祉との連携が重要

ご清聴ありがとうございました